

■ 俺が俺がのが(我)を捨てて、

お陰お陰のげ(下)で暮せ

修正： 2017.01.01

投稿： 2017.01.01



● 俺が俺がのが(我)を捨てて、お陰お陰のげ(下)で暮せ①

昔から「**与える人は与えられる人だ！**」と言われてきました。
恵まれている人はそれだけ恵んできた人、ということです。

「いやいやいや、それはきれいごとだよ。

俺もずっと与え続けてきたけど、ぜんぜん与えられてないよ。(￣д￣)」
という人もおられるでしょう。

そういう人が思っていることは
「**お返ししてくれるのであれば与えます**」ということです。

「だってそうでしょう？

お返しもなく与え続ければ、どんどん自分からものが少なくなっていき、
周りのために自分だけが苦しい思いをすることになるではありませんか？」と、

しかし、そういう人はおそらく誰からも与えられないことでしょう。
なぜならば、

そういう人が求めているのは「お返し」であって、
「お返し」してもらうために与えようとしているからです。
つまり、**相手からより奪うことを目的に相手に与えようとしているから**です。

与えようとすればより与えられますが(**与えて与えられるの原則**)、
奪おうとすればより奪われることになります(**奪って奪われるの原則**)。

泥棒に対して、金銭を積極的に差し出そうとする人はいないように、
奪おうとしている人に対して、恵んであげようと思う人はいません。
むしろ、そういう人からは徹底的に奪ってやりたいと思うはずです。

奪ってやるという思いを根底に、
相手に親切を施してもあだになって還ってくるだけです。

やがて、

「与えても与えられない、だったらもう奪ってやれ！

そうだ、この世は弱肉強食、勝つか負けるかだ！」といった
競争的な考え方をとるようになり、ますます奪われていくことになります。

(続)

//=====//

●俺が俺がのが(我)を捨てて、お陰お陰のげ(下)で暮せ②

「お返ししてくれるのであれば、与えてもいいですよ。(￣д￣)」と、
お返しを求めて、奪うために与えようとしている人には、
誰からも何も与えられないどころか、逆にどんどん奪われていきます。
(与えて与えられる、奪って奪われるの原則です)

家庭や職場などで、たまに聞こえてくるセリフですが、
「今まで俺がどれだけお前のために尽くしてきたか分かってるのか! (;・`д・´)」
というお馴染の主張があります。が、

「どれだけ尽くしてきたか」を力説したところで、
相手は感謝などしませんし、むしろ、感謝を強要されては、
これ以上、関係を続けていきたいとは思わないことでしょう。

おそらく、その相手からしても、
「私もあなたに尽くしている!」
「分かってないのはあなたでしょう?」
「そちらから先に恩返ししなさいよ! (・`ω・´)」
と主張したいところであり、
お互いに「お返ししろ!」の奪い合いの状態にあります。

「奪う」という気持ちが行き着く先は、
「奪われる」という結末しかありません。

誰かから与えられたいのであれば、まずその「与えられたい」という
相手から「奪おうとしている気持ち」を消さなければなりません。具体的に言うと、

「俺がこんなにもお前のためにしてやった」を
「あなたがこんなにも私のためにしてくれている」に転換することです。

難しいですか？

いいえ、誰にでもできます。

(続)

//=====//

●俺が俺がのが(我)を捨てて、お陰お陰のげ(下)で暮せ③

「与えたつもりなのに、誰からも何の見返りもないな…。(´・ω・`)」

と嘆いている人は、

「俺がこんなにもお前のためにしてやった」

という目で相手のことを見ていませんか。もしそうなのだとしたら、

「あなたがこんなにも私のためにしてくれている」に

意識を転換していくことです。

「俺が俺がのが(我)を捨てて、お陰お陰のげ(下)で暮せ」

と言われています。これは曹洞宗の僧侶の良寛の言葉です。

※フレーズにはさまざまな派生版があるようです。

「あのとき俺がしてやった、あのとき俺がしてやった」という、

自己中心的な考えはしょせん「奪う」という考え方です。だから「奪って奪われ」、
最終的には、財産も友人も、何も残らなくなるのです。

夫が妻に、親が子供に、上司が部下に、

「俺がどれだけお前のことをサポートしてやっとなるか、考えたことあるか？」

と詰めかけます。

しかし、そんなことを言われれば、
ますます返す気がなくなる、というものです。

愛想を尽かされ離婚される、部下から信頼されなくなる、などなど、
「俺が俺が」では、やがて多くのものを失うことになります。
流れとしては以下ようになります。

俺が俺が → お返ししろ！ → ウザがられる →
見捨てないでくれ！ → 見捨てられる → 他に奪えそうな相手を探す
の悪循環です。これを、

お陰お陰 → いつもありがとう、これをどうぞ → 感謝される →
こちらこそ → 心から恩返しされる → より一層与えようとする
の好循環とすることも可能です。

与えて与えられるか、奪って奪われるか、
それは、**心がけ一つ**ですよ。

俺が俺がのが(我)を捨てて、お陰お陰のげ(下)で暮せ

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)